

# 神道フォーラム

神道国際学会会報

(平成24年3月15日号・第44号)

特定非営利活動法人  
神道国際学会  
〒132-0035  
東京都江戸川区  
平井5-22-9 田中ビル3階  
電話:03-3610-3975

http://www.shinto.org

## 震災犠牲者の鎮魂と被災地再興を願い

### 国際シンポジウム「災害と郷土芸能」

#### 岩手県大船渡市で ケセンきらめき大学と共催

神道国際学会は東日本大震災から間もなく一年となる二月二十五、二十六両日、国際シンポジウム「災害と郷土芸能」を岩手県大船渡市のリアスホールで開催した。ケセン地方(大船渡市・陸前高田市・住田町)の市民団体「ケセンきらめき大学」との共催事業で、大船渡市が後援した。同震災の津波で大きな被害を受けたケセン地方。当シンポでは、同地域に継承される伝統芸能の奉演により犠牲者の鎮魂を改めて願い、併せて地域復興における基本理念、芸能を含めた地域民の結束の大切さを語り合った。

#### 第一部・初日

##### 「ケセン鎮魂のための地域伝統芸能大会」 鎮魂にむけケセンの郷土芸能を奉演

初日(第一部・二十五日)は、ケセンきらめき大学が主体となった「ケセン鎮魂のための地域伝統芸能大会」。雪の舞うあいにくの天候だったが、地元の人々を含め多数が来場した。

開会にあたり、特別来賓の石康氏(元国連事務次長)、来賓の戸田公明氏(大船渡市長)、主催者側の鈴木迪雄氏(ケセンきらめき大学アドバイザー)がそれぞれ挨拶した。

うち明石氏は、震災後に示した日本人の抑制的な態度について、「一人一人の立派な態度、絆、連帯感の世界に多くの感動をもたらした」と述べ、海外メディアが「静かなる威厳」との表現で日本を賞賛したと紹介した。その上で、今シンポは「なぐさめ、鎮めと同時に、山河のありがたさ、人間と自然の関係

性などを考える絶好の機会となる」と期待感を表明し、さらに「再建に向け、地元市民は粉骨砕身、着々と前進している」と被災地の人々に敬意を送った。戸田氏は地元を代表して、全国からの参加者に歓迎の意を表すとともに、当地の伝統芸能に

関しては、踊り手や指導者、結束や練習場所を津波で失ったものの、「絆によって芸能を伝承していくことは不可欠。多くの協力を得て郷土芸能は今も継続している」と報告した。そして、「シンポジウムを通じて、私たちの取り組みを世界に発信していただくことは復旧・復興に弾みがつく。私たちも夢と希望のある新しい町づくりに向け、一致団結して歩み始める」と、新たな決意を示した。

鈴木氏は、「多くの命と人々の生活を震災が襲い、大きな悲しみをもたらされたが、地元では一歩一歩、前へ歩んでいると聞いている。その中で、地元の人たちが誇りとしている芸能が犠牲者の鎮魂となればと考えている」と語り、今シンポの意図と意義を強調した。

芸能奉演を前に、小島美子氏(国立歴史民俗博物館名誉教授)が演目の解説を行なった。同氏は、民俗芸能の盛んな当地域における「剣舞」や「鹿踊り」な



↑ 金成百姓踊り



一門中組虎舞

どに込められた、非業の死や犠牲への慰めという主旨を踏まえて、「現代では、芸能の本質が失われつつあるが、本日は、その本質にふさわしく演じられる。また『百姓踊り』のように、庶民の工夫で新しい芸能ができていくのも一つの大きな力だ」と感慨を込めて話した。

郷土芸能を奉演したのは七団体。勇壮に、あるいは野趣豊かに披露される一つ一つの舞いや所作に客席からは盛んな拍手が送られた。町の復興に着手したところ

「地域伝統芸能大会」で奉演した門中組虎舞「会場一体で共感できた」

#### 門中組振興会会長の新沼利雄さん

初日の芸能奉演で門中組虎舞(大船渡市指定無形民俗文化財)を披露した門中組振興会。会長の新沼利雄さんは奉演を終えて、「会場に来ていただいた皆さんと共感ができ、有意義なものとなって、よかったです。今後に向けて励みになります」と、一息ついた。

同振興会では、あの日の津波で太鼓や装束、半纏など備品の大部分を流された。しかし、震災一カ月後、小学校の避難所における慰安の舞踊りで早くも活動を再開した。

ということもあり、来場者からは「郷土の素晴らしさを感じた。思わず涙が出そうになった」との声も聞かれた。奉演された演目と奉納団体は次の通り。  
「生出神楽(橋弁慶)」「生出神楽連(陸前高田市)」「門中組虎舞」門中組振興会(大船渡市)▽「赤澤鏡剣舞(太刀踊り)」「赤澤鏡剣舞」門中組振興会(大船渡市)▽「行山流外館鹿踊り」生出神楽



一行山流外館鹿踊り



↑ 生出神楽

第二部・二日目 国際シンポジウム「災害と郷土芸能」

鎮魂・供養と民俗芸能、そしてコミュニティの結束  
講演とパネルディスカッションを展開

二日目(第二部・二十六日)は神道国際学会によるシンポジウム「災害と郷土芸能」が開かれ、三宅善信氏(神道国際学会常任理事)を総合司会に、講演とパネルディスカッションが行なわれた。

冒頭、初日に引き続き挨拶した明石氏は、前日の芸能奉演について、「当地域は再生を目指して、しっかりと足並みを揃えていると感じた」と感想を披露。そのうえで、シンポジウムについては、「二十一世

紀、ますますグローバル化する中で、自己アイデンティティを自覚し主張することは大事。しかし他者への理解、尊重も進行させねばならない。我々の行動として課題を乗り越えるきっかけとなれば」と期待を込めた。

主催者として挨拶した菌田稔氏(神道国際学会会長)は、「三陸地方の津波による多くの命の犠牲を無駄にしてはならない。地域社会の再生を真剣に考えることが鎮魂になる」と強調。さらには、

地域復興への枠組みに関して、「昨日の民俗芸能にも感じたが、我々は生きた人だけでなく、先祖、目に見えないもの、そして自然も参与してコミュニティを作ってきた」と述べて、今シンポジウムがコミュニティ再生への一助となるよう来場者の参画を呼びかけた。

同じく主催の田村満氏(ケセンきらめき大学学長)も挨拶し、郷土芸能の伝承について、「震災後、大変なハードルがあるが、乗り越え、伝えていかねばならない。その思いに真剣さ、本気さがあれば足腰は強くなる。そうすれば今後も伝えていける」と力説した。

芸能協会副会長が「わが故郷の郷土芸能・復興への絆」、ロナルド・モース氏(元カリフォルニア大学教授)が「地球的視野における自然災害」、赤坂憲男氏(学習院大学教授)が「災害と宗教・文化」と題してそれぞれ話した。



平山徹氏(大船渡市郷土)

赤坂氏は冒頭、津波の被災地を歩いた体験から、「ここには宗教、あるいは宗教まがいのものが、あちこちに露出していた」と切り出し、新興地や水田開拓地から背後へと奥まった丘にある、古い由緒を持つ神社が津波から生き残ったとして、「被災地を歩く旅が、気がついてみると、残った神社をお参りする巡礼のような旅になっていった」と語った。そして、訪問地のいくつかを事例として挙げながら、その精神的な光景を紹介した。とくに、供養と鎮魂の情景を取り上げ、あらゆるものにこもる命をあの世に送り返す心持の露出した東北の精神を強調。その目撃の経験によって、民俗学者として「民俗学が試されたり、変更を余儀なくされたりした」と吐露し、最後に、生けるものと死者、人間と自然との付き合いや関係へ思索することの重要性を指摘した。

三氏の講演後、茂木栄氏(國學院大学教授)を司会にパネルディスカッションがあり、講演の三氏に菌田、小島の両氏、ムケンゲシャイ・マタタ氏(オリエンズ宗教研究所所長)が加わり、鎮魂・供養と祭り・民俗芸能の深いつながり、そこから発展するコミュニティとの関係について議論が続いた。

閉会にあたり挨拶したマイケル・パイ氏(神道国際学会理事)は、自然災害において人災の側面も考慮すべきだと付け加え、総合司会の三宅氏も、日本文化と自然災害の切り離せない関係を強調した。

白い東北

国際シンポジウム「災害と郷土芸能」に参加して

中国浙江工商大学日本言語文化学院修士課程  
日本愛媛大学法文学部特別聴講生  
丁 潔雲



新幹線に乗り、東京から東北へ向かう。鉄道に沿って風景が次第に変わって行く。一ノ関で降りたとき、目の前に広がったのは真っ白な東北だった。三陸の湘南とも言われる気仙地域(大船渡市、陸前高田市、住田町)は太平洋側に位置するので、本来は雪が少ないが、今は、初春の季節にも関わらず、白い花びらが空を覆うように舞い落ちていた。3・11東日本大震災から間もなく一年になるが、地震と津波の甚大な被害を受けた気仙は自らの姿を以って、静かにその悲惨さを語っている。

2月25日、「ケセン鎮魂のための地域伝統芸能大会」はケセンきらめき大学と神道国際学会の主催で行われ、海外や日本全国からの参加者、そして地元の人々が参加した。大船渡市の赤澤鐙剣舞、浦浜念仏剣舞、門中組虎舞、小通鹿踊り、陸前高田市の生出生楽、金成百姓踊り、それに住田町の行山流外館鹿踊りが、11カ月の赤子から88歳までの出演者により、続々と上演された。津波により装束と備品を流された出演者達はどんな思いで芸能大会に備え、出演していたのだろうか。大震災を経験した地元の人々はどんな思いで芸能大会を見ていたか。その真剣さと本気さで伝えられたものにより、皆はきっと激励され、勇気づけられただろう。

翌26日、『災害と郷土芸能』国際シンポジウムが開催され、元国連事務次長・明石康氏、神道国際学会会長・菌田稔氏、ケセンきらめき大学学長・田村満氏の挨拶の後、平山徹氏の『地域と郷土芸能』、ロナルド・モース氏の『地球的

視野における自然災害』、赤坂憲雄氏の『災害と宗教・文化』の講演に参加者は耳を傾けた。

休憩後、パネルディスカッションが開かれ、パネラーは質問や意見に対し慎重且つ詳細な回答を述べた。留学生として、外に出て改めて母国の文化の特性を気づくという先生のおっしゃった言葉に共鳴を感じた。被災地では、地域の伝統・文化・絆を保つために欠くことのできないものとして、郷土芸能は土着の人々に求められていると思われる。

三日目の27日は、オプションでケセン地域をバスで回った。薄氷と積雪を踏んで階段を登り、高台にある故に多くの人命を救うことができた加茂神社を正式参拝し、宮司等から震災当時の話を聞いた。微笑みながら当時の状況を語っていたが、心の底にはどれほどの辛い思いを抱えているのだろう。入り江の沿岸から大船渡線までの町は津波でほぼ全滅したため、運転手ささどの道を走っているのが分からなくなる場合もあるという。さびれた町の道路を走り、目に映ったのは建物の消えた白い平野、そして白い雪に覆われた瓦礫と仮設住宅だった。

そんな中で、暖かさを与えてくれたのは世界13カ国450種の椿が展示されている基石椿館だった。今はちょうど大船渡の市花の椿の季節で、華やかに咲いているその姿が、被災地へ希望と勇気を届けようとしている。その後、普門寺、気仙成田山と今泉天満宮を見学し、ようやくその奇跡の一本松に会えた。名勝「高田松原」で津波に耐えて唯一残った松は、海水で根が腐り、維持することが極めて難しい状態となったが、復興のシンボルとして見守られ続けている。

今冷え込んでいる東北に春の歩幅を急いでほしい。白い仮装を脱ぎ、潮の香りを匂わし、気温の回復と共に、この大地よ蘇れ。

オプショナルツアー「被災地の社寺を訪ねる」

国際シンポの翌日に催行

神道国際学会は、岩手県大船渡市での国際シンポジウム「災害と郷土芸能」を終えた翌日の二月二十七日、オプショナル・バスツアー「被災地の社寺を訪ねる」を実施した。ケセンきらめき大学観光学部長で観光ガイドの新沼岳志さんが案内を担当した。

早朝、宿泊の大船渡プラザホテルを出発した一行は、市内を一望する加茂神社を正式参拝。荒谷貴志宮司の父君である禰宜様から、大津波が襲来した際の様子、その後にとった行動などについて話を聞いた。

続いて世界の椿展がオープンしたばかりの碁石椿館(大船渡市)を見学し、陸前高田市へ入った。

まずは南三陸の名刹として名高い禅寺、普門寺(曹洞宗)を参詣。次に、津



加茂神社で当時を説明する荒谷禰宜

波に押し流された同市の中心地を訪れた。廃墟となつた市役所の前には祭壇がおかれ、周りには赤いランドセルが積み重ねられていた。参加者はその前に整列して黙祷。それぞれになくなられた方々の冥福を祈つた。



「応援ツアー」のつもりが元氣な笑顔に見送られて(碁石椿館)

まず南三陸の名刹として名高い禅寺、普門寺(曹洞宗)を参詣。次に、津波に押し流された同市の中心地を訪れた。廃墟となつた市役所の前には祭壇がおかれ、周りには赤いランドセルが積み重ねられていた。

当時の惨状に聞き入った。最後に「気仙成田山」金剛寺(真言宗智山派)を参拝した。高台にある同寺には一時避難した人も多かったという。

さらに同寺の近くに鎮座していた今泉天満宮を拝した。流された社殿には結果が張られ、樹齢八百年といわれるご神木の「天神の大杉」のみが当時のままだに立っていた。

ツアー「被災地の社寺を訪ねる」でガイドを務めてくれた

陸前高田市の新沼岳志さん

(ケセンきらめき大学観光学部長)

「市民感覚で大切なことを学んでほしい」

国際シンポ「震災と郷土芸能」に参加した一行で実施した、被災地の社寺を訪ねるオプショナル・バスツアー。二月二十七日、早朝から同行し、大船渡、陸前高田の両市を懇切に案内してくれた。

高台にある自宅の庭を植物でいっぱいにして、花の季節には「自然園」として開放する。市民団体「ケセンきらめき大学」観光学部の学部長として、またグリーンツーリズムの指導員として、当地の観光ガイドに意を注ぐ。

「被災地の『瓦礫(がれき)』という『瓦礫』は流された人にとつては一つ一つが大切な思い出なんです」

「被災地の『瓦礫(がれき)』という『瓦礫』は流された人にとつては一つ一つが大切な思い出なんです」



町の復興について、市民の声を反映してほしいと、切実に願う。「『右がいい』『左がいい』防波堤は高いものを『いや低いほうが』……。復興も簡単に進まないのが現実です」



今回の国際シンポジウム開催にあたり、復興と保全に全力を挙げている伝統芸能の関係者に、有志の方々から支援金三十万円が寄せられました。支援金は二月二十五日の慰労会の席上、名簿を添えて、菌田稔・神道国際学会会長から、平山徹・大船渡市芸能協会副会長に贈られました。

伝統芸能復興に支援金

ご協力くださった皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

- 石川日出子(有岩峰社印刷・岩澤知子・梅田節子・小俣茂・恩田彰・狩集眞男・高橋尚子・土屋光彦・平松温子・古川麻実子・満里小路通真・水谷川忠俊・宮崎貞行・村上三恵子(以上東京)。石橋和彦・川口神社・河辺修造・木村甫・深瀬初代・山田富士子・山本清子(以上埼玉)。狩集眞一・椎津澄江(以上千葉)。門山榮作・小菅浩之・渡邊節子(以上神奈川)。片山博・吉田規久子(以上京都)。狩集広行(山梨)。鈴木康晴(茨城)。林本和彦(静岡)。宮田紀子(鳥取)。福島順子(山口)。保村翠(熊本)。計 三十五名(敬称略)

本年度第一回理事会を開催

二月二十五日

神道国際学会の平成二十四年度、第一回理事会が二月二十五日、国際シンポジウム「災害と郷土芸能」の開催に併せ、岩手県大船渡市の大船渡プラザホテルで開かれた。

定款に則り大崎直志理事長が議長を務め、翌日の社員総会に回付する事業報告・会計収支報告など(平成二十三年度)、事業計画(案)・会計収支予算(案)など(平成二十五年度)を協議した。

また、今秋にカリフォルニア大学サンタバーバラ校(アメリカ)で開催予定のシンポジウム「災害と宗教文化」について、同大学のフアビオ・ランペリ教授から説明があったほか、南開大学日本研究院(中国)で継続中の日本思想文化講座(本会が

資金提供)について、同大学の劉岳兵教授から報告がなされた。

本年度社員総会を開催

二月二十六日

神道国際学会の平成二十四年度、社員総会が二月二十六日、岩手県大船渡市のリアスホール(市民会館)で開かれた。

菌田稔会長の開会挨拶に続き、三宅善信常任理事を議長に選任。引き続き、平成二十三年度事業報告・決算報告・監査報告、平成二十五年度事業計画・予算を審議し、全会一致で承認した。閉会にあたりマイケル・パイ理事が挨拶した。

連載・神道DNA

『宗教報道についてのマスコミの罪』

金光教泉尾教会総長 (株)レルネット代表 三宅善信

今、マスコミを騒がせている話題のひとつにオセロ中島なる二流芸人の「マインドコントロール事件」(本来なら「家賃滞納事件」というべきであるが...)がある。詳細については文字数の無駄なので述べないが、「どこが問題であるか?」という点で、マスコミも含めて多くの人々が間違っている。今回はその点を指摘しつつ、日本における宗教文化報道の問題について述べたい。

本事件に関する世間一般の善悪評価は、以下のとおりである。諸悪の根源は「女霊能者」、被害者は「オセロ中島」、そのことを指摘し断罪する正義の味方は「マスコミ」(註:ここでいう「マスコミ」とは、主としてテレビ局のことを指す)ということになっており、悪さの順番でいうと、女霊能者Vオセロ中島Vマスコミという図式になっている。しかしながら、そもそもこの状況認識が間違っている。ただし、マスコミはマスコミ自身が批判されることは報じないので、結果的には、一般国民が騙されることになる。

ずばり言う。構造的悪さの順番からいうと、一番悪いのがマスコミ、その次がオセロ中島、最後が女霊能者の順である。答えは簡単である。何故なら、それぞれの社会的責任の大きさが違うからである。

テレビ局という事業は、放送法の規定によつて政府(総務省)から認可された免許事業であり、一般の株式会社のように誰でも資金さえあれば設立できるようなものではない。放送事業者は、NHKはいうまでもなくたとえ民放であっても、電気・ガス・通信・鉄道事業者同様、国民の生命・財産の根幹にかかわる公共的機関と見なされているからである。だから、「三・一一」東日本大震災の際には、営利事業である民放であっても、通常の番組をすべてキャンセルして、何十時間にもわたってコマースナルなしで報道特別番組をオンエアしたのである。

つまり、誰でもが自由に発行できる新聞と比べて、テレビ局の義務と責任は遙かに重いのであり、放送法第三条によつて、放送事業者は番組の編成に当たつて、(一)公安及び善良な風俗を害しないこと。(二)政治的に公平であること。(三)報道は事実をまげないですること(以下、省略)を充足しなければならないことになつてゐる。これらのことを敷衍して、民放連や各放送局では「宗教」に関する取り扱いについても内規が定められており、その多くが、放送法の趣旨である「不偏不党」の精神や「科学的合理主義」に反する価値体系であるとして、宗教というものに対してネガティブな評価をしている。

セロ中島の罪が重いというかとすると、彼女はセレブ(註:セレブに「金持ち」という意味はない。ただ「著名な」という意味である)であるからである。一般市民が悪質な霊能者のカモにされても、誰も見向きもしないが、芸能人やスポーツ選手等のメディアに露出することを商売としている人間には、振る舞いや発言にそれだけ責任があるからである。そして、最後が「女霊能者」である。世の中には、インチキ占い師だの霊能者だのといった連中がごまんといる。そんな頭のおかしい連中のごまんと構つていられないからである。

今回の被災地大船渡で放送免許を取り上げられるであろう。明らかに放送法に違反しているからだ。しかし、政治家は選挙のことを考えて、決してテレビ局の悪口を言わない。そして、何の責任もない「自称占いの師」や「自称霊能者」の戯言は垂れ流すくせに、細かい教義や教団内の諸制度によつて奔放な意見表明が厳しく制限されている教団宗家の意見をオンエアしない放送局のほうが、よほど問題である。

次に、何故、一般からは「被害者」と目されているオセロ中島の罪が重いというのか?..

インターナショナル・シントウ・ファウンデーション(ISF)便り

恒例 年末の大祓と新春の初詣

ISFは昨年大晦日、英語による神道入門講座「大震災と神社」、引き続き年末恒例の大祓式を行った。参加者二十五名。

まず中西オフサイサーが、去る三月十一日に発生した東日本大震災による地震や津波、更に福島第一原発の事故で、未曾有の被害を受けた事など、映像を交えつつ一年を振り返った。レクチャーに引き続いて、毎年恒例の大祓式が行われた。

三が日には初詣行事が行なわれた。元旦未明には近くのタイムズ・スクエアのカウントダウンから帰路につく途中の若い人達が多く、熱気が溢れかえったが、その後はおもに家族連れが参拝に訪れた。今年も元旦が日曜日だったためオフィス外の廊下に参拝や御祈待ちの長い行列が出来るほどの人々で溢れかえり、三が日の参拝者は三百名を超えた。

日系新聞、インターネットやブログで初詣が紹介されたり、また毎年お参りに来られる常連も多く、ISFでの初詣がNYに着実に根を下ろしている事が実感された。

国連で諸宗教調和週間

二月七日、「世界諸宗教調和週間」を祝う式典「公益の為の共通性」が国連総会議場で開催され、ISFからキャサリン・マーシャル理事と中西オフサイサーが参加した。

開会で国連総会のナールセル・アブドララジズ・アルナセル議長は、「平和構築の為に多文化理解を育んでいくべき」で、それには世界中の宗教が「世界平和」をもたらす可能

性を秘めていると強調。またマーシャル氏は「国連の再生」について講演し、貧困の撲滅や平和の構築などのミレニアム開発目標を達成するために国連と諸宗教の協力、更には熱意や古代から現代に至る霊的な知恵が重要であると述べた。式典の最後には、諸宗教指導者が集い、中西オフサイサーも木に水を与えるセレモニーに参加した。

気仙沼の畠山重篤さん 国連「森の英雄賞」受賞

二月九日、昨年の国際森林年を記念して創設された第一回「森の英雄賞」表彰式が国連本部で開かれ、日本の気仙沼市の畠山重篤氏を含む五名が表彰された。

畠山氏は「森は海の恋人」と銘打った二十年以上に及ぶ植林活動で著名だが、神道国際学会でも設立十五周年記念シンポジウム「神道の立場から世界の環境を問う」で基調講演をおこない好評だった。

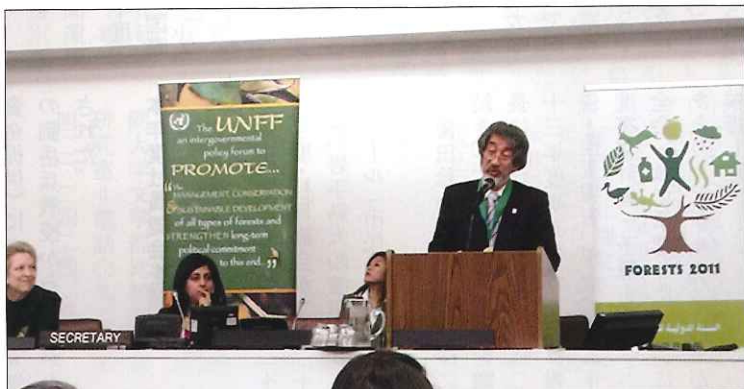
表彰式では、国連森林フォーラムのジャン・マックアルパイン事務局長が、「森の英雄賞」表彰にあたり、森林にとつて重要な人物こそが選考する上での判断基準となつたと述べ、審査員の一人FAO(国連食糧農業機関)のピーター・チョーカー氏が受賞者の畠山氏を紹介した後、受賞のメダルを掛けた畠山氏が登壇して記念講演を行なった。

畠山氏は初めに、昨年に日本をおそった大震災で、二十二年にも亘つて植林を続けてきた気仙沼も大きな被害を受け、氏の母も亡くなったと述べ、さらに各国からの支援に深い感謝の意を述べた。



今回の受賞にあつては、牡蠣養殖の漁民として汚れた海を再生させる為に植林を始め、まず川がきれいになりついでには海が蘇つたという自身の体験から、森・川・海が一体である事を伝える事が重要であると述べ、さらに国際森林年で国連が定めたロゴマークに、海を示すマークを是非加えて頂きたいと強調した。

更に先の大震災による大津波で海から生物の姿が消滅したが、その後、森からの養分が川を伝つて海に流れ込み、やがて魚達も戻ってきたと付け加え、「まず人の心の中に木を植える事」こそが大切と結んだ。会場には日本からも多くの関係者や報道陣が駆けつけ、畠山氏の受賞を祝っていた。



# From Abroad

— 外国人研究者紹介

## ロナルド・A・モース氏

元米国カリフォルニア大学ロサンゼルス教授  
日本民俗学者



米政府高官から日本民俗学者へ

震災からの心の癒し——

芸能や信仰など柳田國男の心意が必要に

大学バークレー校で  
修士課程では  
中国の明時代の  
歴史について  
研究していた。

その後は、国防総省  
戦略貿易チーム主任  
研究員、国務省(日本  
政治・国際問題担  
当)、エネルギー省  
(中東・アジア担当)、  
米国議会図書館館長  
特別補佐官、経済戦  
略研究所(ESI)副  
理事長、メリーラン  
ド大学国際交流部長、  
麗澤大学国際経済学  
部教授、カリフォル  
ニア大学ロサンゼル  
ス校(UCLA)教授  
などを務めた経歴を  
もつ。

日本民俗学の研究  
に関しては、日本の  
過去への郷愁とも  
に柳田人気が高まっ  
た一九六〇年代に、所  
属していたプリンスト  
ン大学で、史研究の  
大家である色川大  
吉氏に『遠野物語』  
をすすめられ、柳田  
國男全集を贈られた  
経歴もあって、柳田  
國男と民俗学をテー  
マに博士号を取得し  
た。

それ以前は柳田にも  
日本民俗にも特に接  
する機会もなく、日  
本語の勉強のため、  
京都に一年、東京に  
二年滞在了らしたの  
みで、修士課程では  
中国の明時代の歴史  
について研究してい  
た。

野にほど近い  
岩手県大船渡市で行  
われた神道国際学会  
主催の国際シンポジ  
ウム『災害と郷土芸  
能』に講師として招  
かれた。シンポジウム  
では、地元大船渡の  
郷土芸能に携わる平  
山徹氏、モース氏と  
同じく東北民俗学の  
研究者である赤坂憲  
雄氏とともに講演し、  
『地球的視野におけ  
る自然災害』のテー  
マで、世界中の自然  
災害を例にあげて  
国家の政治・経済対  
策は不適切であることを  
強調した。

今迄数えきれない  
ほどフィールドワーク  
で訪れた東北地方が、  
去年の東日本大震災  
で計りしれない自然  
の力で破壊されたこ  
とについてモース氏  
は、日本は地震大国  
であり、且つ島国で  
あるがために、多く  
の犠牲者が出たこと  
は残念で仕方なく、  
どうしようもないこ  
とだ。けれど、国土  
の周りを高い堤防で  
覆うわけにもいか  
ないし、百年周期で  
訪れるとされる津波  
を二度経験する人  
は皆無に近く、住民  
にも十分な準備・経  
験が不足し、また  
政府も同じく地震・  
津波・

原発に対する知識・  
準備が十分であつた  
と指摘する。また復  
興に関しても、まっ  
たくとはいえないが、  
政府は技術面の対応  
が不十分で、被災地  
の復興と住民の生活  
を守る上で必要な  
ことだし、人々の生  
活に必要な支援や道  
路や建造物の立て直  
しなどは、精神・心  
のいやしまではして  
いないのが現状であ  
るといふ。

技術では精神を治  
すことはできず、ま  
た技術的な投資は荒  
れた精神を押しつけ  
ることはできず、治  
すことはできない。そ  
の心に癒しを施して  
完全な復興を遂げる  
には、再度人間関係  
を作ることであり、  
芸能や宗教・信仰で  
あり、柳田國男の心  
意現象そのものが必  
要になるのであると  
話す。

伝説や民俗芸能の  
宝庫の岩手をはじめ  
とする東北地方が、  
これから先、経済的  
な発展を遂げつつ、  
各個人や地域に受け  
継がれてきた伝統や  
精神を失うことなく  
復興し、コミュニティ  
の再構成をしてほし  
いと、今後の東北復  
興への願いを述べる。

原発に対する知識・  
準備が十分であつた  
と指摘する。また復  
興に関しても、まっ  
たくとはいえないが、  
政府は技術面の対応  
が不十分で、被災地  
の復興と住民の生活  
を守る上で必要な  
ことだし、人々の生  
活に必要な支援や道  
路や建造物の立て直  
しなどは、精神・心  
のいやしまではして  
いないのが現状であ  
るといふ。

技術では精神を治  
すことはできず、ま  
た技術的な投資は荒  
れた精神を押しつけ  
ることはできず、治  
すことはできない。そ  
の心に癒しを施して  
完全な復興を遂げる  
には、再度人間関係  
を作ることであり、  
芸能や宗教・信仰で  
あり、柳田國男の心  
意現象そのものが必  
要になるのであると  
話す。

伝説や民俗芸能の  
宝庫の岩手をはじめ  
とする東北地方が、  
これから先、経済的  
な発展を遂げつつ、  
各個人や地域に受け  
継がれてきた伝統や  
精神を失うことなく  
復興し、コミュニティ  
の再構成をしてほし  
いと、今後の東北復  
興への願いを述べる。

伝説や民俗芸能の  
宝庫の岩手をはじめ  
とする東北地方が、  
これから先、経済的  
な発展を遂げつつ、  
各個人や地域に受け  
継がれてきた伝統や  
精神を失うことなく  
復興し、コミュニティ  
の再構成をしてほし  
いと、今後の東北復  
興への願いを述べる。



「難波の小池」に臨んで

御神徳の八方除をテーマに——天文・暦・陰陽

寒川神社では、正月二日の夜「なんばのこいけ、なんばのこいけ」と唱え難を除ける祭儀が行われている。「難波の小池」は、神社創建に関わる重要な池で、本殿裏の禁足地である神嶽山の中でひっそりと湧いていたものが、平成二十一年に境内整備を行い一般に開放され、難波の小池はもちろん、茶室や資料館、夏には雅楽や舞を披露できる舞台を有する庭園で、現在では寒川神社で祈禱を受けた方々だけが入場できる俗世を離れた場所である。

その庭園の中に行む「方徳資料館」は、寒川神社の御神徳である方位除けをテーマに、天文・暦・陰陽などの貴重な資料を多数揃え来場者を魅了し、またこれほど専門的で貴重な資料をそろえる資料館も珍しく研究者の立ち寄りも少なくない。

館内に入ると中央で出迎える四方を司る四神に、十二の時・月・方角を守る十二神、それに囲まれた平安京のジオラマが八方除の神社に相応しく八角形のガラスケースで展示され、その周りには他の展示が包み込むように配置される。

貞観四年(八六二)〜貞享元年(一六八四)の八二三年間使用されていた太陰太陽暦「宣明暦」。この暦法書「宣明暦」は寛政二十一年(一六四四)に刊行されたもので、多色摺りで保存状態も極めて美しく珍しい一品。それを筆頭に、天明二年(一七八二)からくり半蔵の名で知られる細川半蔵の作とされる天文観測器「三極通儀」、江戸時代にあつた唯一の機械技術書「機巧図彙」、農村で使われ、絵文字で全て記された

暦「田山暦」など。また『機巧図彙』の内容を再現したからくり人形や、江戸時代の天文台のジオラマが展示される。その他天文に関する以外にも、五月五日に行われる国府祭の祭場ジオラマや、神社の年表、地元で発見された出土品の

解説、八方除けの信仰から安倍清明に代表される陰陽師や近い関する展示などがあり、厄除け・難除け・八方除けの信仰を集める寒川神社に相応しい資料が拝観できる。

▽方徳資料館を含む神嶽山神苑は、各種御祈願・大祓祈願申し込み者のみ入苑可能。御祈願当日に限らず後日でも入苑可能。

▽開苑期間(春・秋) 四月一日〜十一月三十日。月曜日休苑(祝祭日は開苑)。上記以外の期間(冬)は開苑。

▽開苑時間 午前九時〜午後四時

※方徳資料館 午前九時〜午後四時  
※茶室「和楽亭」(苑内施設)  
午前九時三十分〜午後三時三十分  
拝服料五百円より思召し

▽神奈川県高座郡寒川町宮山三九一六  
▽電話 〇四六七(七五)〇〇〇五(代表)



## 寒川神社 方徳資料館

寒川神社では、正月二日の夜「なんばのこいけ、なんばのこいけ」と唱え難を除ける祭儀が行われている。「難波の小池」は、神社創建に関わる重要な池で、本殿裏の禁足地である神嶽山の中でひっそりと湧いていたものが、平成二十一年に境内整備を行い一般に開放され、難波の小池はもちろん、茶室や資料館、夏には雅楽や舞を披露できる舞台を有する庭園で、現在では寒川神社で祈禱を受けた方々だけが入場できる俗世を離れた場所である。その庭園の中に行む「方徳資料館」は、寒川神社の御神徳である方位除けをテーマに、天文・暦・陰陽などの貴重な資料を多数揃え来場者を魅了し、またこれほど専門的で貴重な資料をそろえる資料館も珍しく研究者の立ち寄りも少なくない。館内に入ると中央で出迎える四方を司る四神に、十二の時・月・方角を守る十二神、それに囲まれた平安京のジオラマが八方除の神社に相応しく八角形のガラスケースで展示され、その周りには他の展示が包み込むように配置される。貞観四年(八六二)〜貞享元年(一六八四)の八二三年間使用されていた太陰太陽暦「宣明暦」。この暦法書「宣明暦」は寛政二十一年(一六四四)に刊行されたもので、多色摺りで保存状態も極めて美しく珍しい一品。それを筆頭に、天明二年(一七八二)からくり半蔵の名で知られる細川半蔵の作とされる天文観測器「三極通儀」、江戸時代にあつた唯一の機械技術書「機巧図彙」、農村で使われ、絵文字で全て記された暦「田山暦」など。また『機巧図彙』の内容を再現したからくり人形や、江戸時代の天文台のジオラマが展示される。その他天文に関する以外にも、五月五日に行われる国府祭の祭場ジオラマや、神社の年表、地元で発見された出土品の解説、八方除けの信仰から安倍清明に代表される陰陽師や近い関する展示などがあり、厄除け・難除け・八方除けの信仰を集める寒川神社に相応しい資料が拝観できる。

# 詩でたどる日本神社百選

進藤彦興著



二〇一二年にようやく表題の本が完成した。プロのカメラマン三人にも手伝ってもらい、のべ百五社取材して取り上げた。百社といつてもちょうど百で区切るのには縁起が悪いというインドの格言に従って、五社のみだして終わった。

そもそも私は大学で民俗学を学び、事業を始めてから三十五年海外の民芸品を輸入販売する仕事をしてきた。それで主に発展途上国から民芸衣料や雑貨を探しまわって年海外で仕事をしていた。だから「フォー

クロア世界への旅」(毎日新聞社)「世界民芸茶室」(毎日新聞社)「世界の不思議なお守り」(平凡社)などはその調査探訪の記録でもあった。

しかし仕事が順調に伸び始めてから、直営小売店の比重が高まり、この十年間位は全国店の展開が重要になり、海外に輸入仕入れの旅に出るより、国内の各地に飛んで回るようになって来た。出店の話が出ると、商業全体の情勢判断もさることながら、その土地の伝統文化、氏神さまのありようも気になる。

## マイ・ブック・レビュー

海外でも信仰のありようは気にしてきたが、特にアフリカの民俗信仰やアジアのヒンズー教など、日本と共通する土壌のものには注意してきたが、日本各地の神社ほど、不思議なものはない。鎮守の森と一口で言うが、そのありようは実にさまざまである。そこには日本民族の始祖の時代からの遺俗があり、それを残してきている人々が生きていくのである。民俗学の手法で聞き書きを中心に取材した。

海外でも信仰のありようは気にしてきたが、特にアフリカの民俗信仰やアジアのヒンズー教など、日本と共通する土壌のものには注意してきたが、日本各地の神社ほど、不思議なものはない。鎮守の森と一口で言うが、そのありようは実にさまざまである。そこには日本民族の始祖の時代からの遺俗があり、それを残してきている人々が生きていくのである。民俗学の手法で聞き書きを中心に取材した。

- 掲載神社Ⅱ
- 秩父神社・高麗神社・鹿島神社・大洗磯崎神社・筑波山神社・一言主神社・玉前神社・赤城神社・安房神社・氷川女体神社・篠原八幡神社・明治神宮・貫前神社・雷電神社・箱根神社・石都々古和気神社・伊佐須美神社・金華山黄金山神社・刈田嶺神社・鹽竈神社・室根神社・氷上神社・早池峰神社・出羽三山神社・岩木山神社・善知鳥神社・姥神大神宮・義経神社・白濱神社・富士山本宮浅間神社・北口本宮富士浅間神社・熱田神宮・生島足島神社・諏訪大社上社・諏訪大社下社・穂高神社・氣比神社・白山比咩神社・白山中居神社・平泉寺白山神社・彌彦神社・黒姫神社・住吉大社・春日大社・樞原神宮・大神神社・石上神宮・貴船神社・上賀茂神社・下鴨神社・松尾大社・八坂神社・多賀大社・竹生島神社・籠神社・丹生都比売神社・丹
- 生川上神社下社・天河大辨財天社・玉置神社・熊野本宮大社・熊野那智大社・熊野速玉大社・花乃宿神社・伊勢神宮・猿田彦神社・二見興玉神社・出石神社・伊弉諾神宮・大麻比古神社・椿神社・大山祇神社・金刀羅宮・厳島神社・吉備津神社・焼火神社・水若酢神社・玉祖神社・忌宮神社・出雲大社・日御崎神社・美保神社・八重垣神社・宗像大社・阿蘇神社・宇佐神宮・青島神社・鶴戸神宮・狹野神社・霧島東神社・霧島神宮・鹿児島神社・高千穂神社・天岩戸神社・蒲生八幡神社・和多都美神社・塞神社・唐津神社・鏡山神社・田島神社・幣立神宮・鶯原神社・世持御嶽・斎場御嶽・クボ御嶽
- ▽定価二五〇〇円+税。
- ▽民芸追求Ⅱ横浜市中央区山下町二一四。

## 新刊 『祝詞用語用例辞典』

祝詞で使う用語や枕詞——語意と実用例を分りやすく解説  
編著者の一人、加藤隆久氏に聞く

「祝詞は、神職にとって必要不可欠な言葉である」本書の序文冒頭で、編著者の筆頭者、加藤隆久氏(生田神社宮司、神社本庁長老、神戸女子大学名誉教授)が述べる言葉である。その加藤氏は「言葉であるからには、正しく神に伝え、氏子・崇敬者にも正確に分るように作られなければならない」

「祝詞」に込められた心と、その心を表す正しい言葉遣いの大切さを主張する。「ところが近年、この祝詞用語について、若い神職さんたちは、その正しい読み、正しい意味や意義を把握していないのではないかと、感ずることが多くなりました」

そんな状況を払拭するために、このたび上梓されたのが『祝詞用語用例辞典』だ。同辞典では、斎行される祭祀の「祝詞」でよく使われる用語を五十音順に配し、その語句の意味や語義を解説している。各用語には、刊行に当たって新たに作成された実用文例のほ

か、「神社本庁例文」などからの用例も載せ、その掲載箇所も表示する。また後半には、「祝詞」のなかで用いられる「枕詞」も多数掲載。「万葉集」「古今和歌集」などでの用例、およびその所載の箇所を示している。

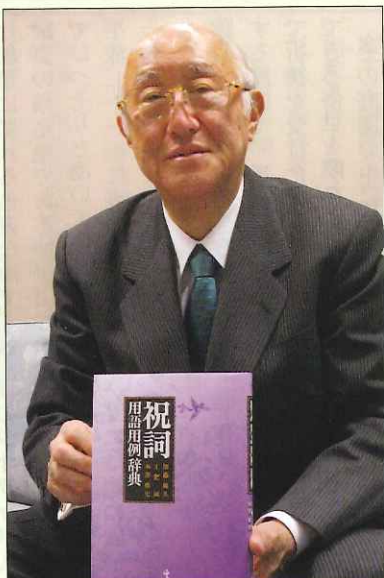
「祝詞」に関するこの類の詳しい辞典はこれまで、存在するようで、じつは刊行されていなかったものも多かった。」「ですから、神職さんの希望に沿った辞典として、非常によろこばれるものだと思います。必要不可欠な要素を詳しく、分りやすくまとめており、しかも簡便に引くことができる。日々、祭祀に接するなかで、座右に置いて用いていただけに、」と加藤氏はPRする。

本書はもちろん、神職向けの辞典ではあるが、同時に、「一般の人々にも是非、読んでもらいたい」というのが同氏の意向だ。「世情への不安、政治経済への閉塞感からか、近年はとくに若い世代の方たちが神社に、真剣にお参りする姿を見かける。そのとき御神前で、祝詞の意味が分からない」というのはもったいないと思うのです」

祝詞用語とはいえ、それは、この国で千三百年の長きにわたって醸成され、伝えられてきた日本語である。「その古語の意味を、とくに枕詞の味わいを知っていただくと、心がとても豊かになりますよ」と加藤氏は当辞典の活用を推奨している。

『祝詞用語用例辞典』は、加藤氏のほか、土肥誠氏(國學院大学講師、白旗神社禰宜)、本澤雅史氏(皇學館大学教授、宇佐神社禰宜)による共同編著。戎光祥出版

電話〇三(五二七五)三三六一一刊。A5判。税込三九九〇円。



## 学会・学術情報

●西日本宗教学会  
第二回大会を三月三十一日、福岡市城南区七隈の福岡市立中央公民館で開催する。

岡大学メディアカルホールで公開シンポジウム「死者のフォークロア——人類学」

民俗学・宗教学——。十三時〜十七時二十分。討論者は波平恵美子氏(元・日本文化人類学会会長)、小松和彦氏(国際日本文化研究センター教授)、関一敏氏(九州大学大学院人間環境学院教授)。司会は白川琢磨氏(福岡大学人文文学部教授)。

岡大学メディアカルホールで公開シンポジウム「死者のフォークロア——人類学」

同学会事務局は九州大学大学院人間環境学府/同大学文学部比較宗教学研究室 電話〇九二(一六四二)二四二四。

バンガロール通信 吉岡信子

聖地・バラナシ旅行

インド在住四年半。私の住むバンガロールを拠点に、南インドを中心に旅行していましたが、昨年末、初めて、北インドに位置するバラナシを訪れることにしました。

バラナシは日本では「ベナレスの鹿野園」という仏教聖地として有名ですが、ヒンズー教にとっても大切な聖地であることは、ご存知の通りです。ガンジス川を中心に町が発達しています。シルク産業が盛んなのだそうですが、町全体は聖地としてそのたたずまいがあるように感じました。

建っている有名建築物を川の側から見学。船頭さんも英語の上手な人でしたので会話を楽しんでいました。ふと小舟の外の川面に目をやると、黒いものがたくさん浮かんで見えます。ガンジス川沿いでは夕刻、相当数の火葬が行われるので、もしかしたらその一部かもしれない。決して遠くはない沖では、漁師さんが釣りを。確か、私の宿泊ホテルのレストランに、魚メニューがあったような。私はこれら三つを関連づけて考えないことにしました。とはいいながら、バラナシ滞在中、魚料理は口にしませんでした。



朝日さすガンジス川

みえました。

舟から降りると、ガイドさんが待っていてくれました。来る時から気になっていたのですが、細い道が建物沿いに曲がりくねっていて、なんだか大阪にある生駒神社へ続く参道に似ています。何か関連があるのでしようか。

翌朝は、ガンジス川で朝日を拝むため、ホテルにドライパーが六時に迎えに来てくれました。真つ暗な中、ガンジス川付近に到着。生駒神社の参道に似ている道を歩いていくうちに、明るくなってきました。日の出前のガンジス川は、未亡人やお年寄り男性の沐浴の時間のようです。明るくなった日の出直前からいから、親族を亡くした男性たちが沐浴を始めます。日が昇ると、途端に水温が下がるのだとか。それでも、朝日である時間帯は、冬でも沐浴できる温度のようです。写真は、朝日が高くなり始めたところでした。

投稿

さめのボートなので、乗客は私ひとり。船頭さんとふたりきりという、贅沢な観光です。ガンジス川に小舟を浮かべて、沈みゆく夕日を鑑賞。また、ガンジス川に向けて

建っている有名建築物を川の側から見学。船頭さんも英語の上手な人でしたので会話を楽しんでいました。ふと小舟の外の川面に目をやると、黒いものがたくさん浮かんで見えます。ガンジス川沿いでは夕刻、相当数の火葬が行われるので、もしかしたらその一部かもしれない。決して遠くはない沖では、漁師さんが釣りを。確か、私の宿泊ホテルのレストランに、魚メニューがあったような。私はこれら三つを関連づけて考えないことにしました。とはいいながら、バラナシ滞在中、魚料理は口にしませんでした。

翌朝は、ガンジス川で朝日を拝むため、ホテルにドライパーが六時に迎えに来てくれました。真つ暗な中、ガンジス川付近に到着。生駒神社の参道に似ている道を歩いていくうちに、明るくなってきました。日の出前のガンジス川は、未亡人やお年寄り男性の沐浴の時間のようです。明るくなった日の出直前からいから、親族を亡くした男性たちが沐浴を始めます。日が昇ると、途端に水温が下がるのだとか。それでも、朝日である時間帯は、冬でも沐浴できる温度のようです。写真は、朝日が高くなり始めたところでした。

神社界あれこれ

清盛ゆかりの神社賑わう

大河ドラマ「平清盛」にあやかり、



兵庫県や神戸市などには、清盛ゆかりの社寺や史跡のPRにも積極的で、清盛が福原に勧請した神社へ参拝・見学する人も増加している。写真は平家一門の氏神、安芸国厳島神社を勧請した厳島神社(兵庫区)。

半ばまで。期間中は神戸市内に歴史館などを特設するとともに、各所で歴史・文化情報を発信し、イベントや講座も催す。

清盛は現在の神戸に福原京の造営を計画。実際に約半年間、安徳天皇や高倉上皇を伴って遷都した。

神戸市は市内に散在する清盛ゆかりの社寺や史跡のPRにも積極的で、清盛が福原に勧請した神社へ参拝・見学する人も増加している。

写真は平家一門の氏神、安芸国厳島神社を勧請した厳島神社(兵庫区)。

清盛ゆかりの社寺や史跡のPRにも積極的で、清盛が福原に勧請した神社へ参拝・見学する人も増加している。

写真は平家一門の氏神、安芸国厳島神社を勧請した厳島神社(兵庫区)。

秩父夜祭拝観記

さる十二月三日、関東の中でも古い歴史を持つ埼玉県・秩父神社の例祭「秩父夜祭」を拝観しました。

午前中降りしきる雨の中、献幣使の到着をもって例大祭が厳かに始まりました。秩父盆地に面した御神体山・武甲山から春の御田植祭にお迎えした龍神さまを収穫期の終えた初冬にお返しするお祭りだそう、龍神さまのもたらされた雨かと思うと感慨深いものがありました。その雨も午後にはあがり、御神幸行列の後を彩る二台の笠鉾と四台の屋台が豪華な姿を見せて曳き廻され、各屋台の後ろに設けられた小さな舞台では曳き踊り

りが披露されるなど街は賑わいを増してきます。日が落ちるといよいよ御神幸行列の出御です。神社にお祀りされている北極星・北斗七星の女神・妙見さまが、武甲山を望む御旅所で武甲山の男神さまとお逢いなさるのだとか。大麻や御供物、御神馬などを連ねて御神輿行列が肅々と進んだ後にはたくさん灯りを灯した笠鉾・屋台が勇壮に曳かれ、祇園祭・高山祭と並んで日本三大曳山祭に挙げられます。もっとも感動的なのは御旅所祭でした。妙見さまの御神体石である亀の子石の前で奉納されるのは古式ゆかしい優

美な代参宮神楽。ゆったりとした神楽の笛の音に合わせて舞われるそれは天地和合の純粹な喜びに満ちていて、強く心を打つというよりもどこか穏やかで素直な気持ちになれそう。そんな不思議な舞でした。初冬深夜の冷え切った



ゆかしく優美に秩父神社御旅所祭

初めて参拝した今宮戎の「十日えびす」

「えべっさん」として有名な大阪市浪速区の今宮戎神社で一月九日から十一日までおこなわれる「十日戎」を初めて参拝しました。境内を埋め尽くす参拝客にもまれながら、私も福笹を受け、きれいな福娘さんたちに縁起物をつけてもらいました(写真)。

昨年は各地で災禍にみまわれた日本でしたが、今年心機一転、福笹を持って一年の安穩を祈る真剣な



体に、心だけはほんわりとあたたく帰路につきました。

古川 麻実(東京)

新刊紹介

※平成二十四年一、二月を中心に行きわたった神道および関連分野の新刊本を紹介いたします。



●宮本常一とあるいた昭和の日本(7)近畿1「あるくみるきく双書」

●延喜式祝詞の研究 金子善光 著

●神話のおへそ「神社検定公式テキスト2」

●鹿兒島ふるさとの神社伝説 高向嘉昭 著



●聖地再訪・生駒の神々〜変わりゆく大都市近郊の民俗宗教

●知れど知らざるの伊勢神宮入門 茂木貞純 著

●日立市郷土博物館 市民企画写真展「私たちの絵馬」

博物館情報

企画展・イベントなど

神宮徴古館

【特別展】遷宮展】

▽三月十日〜七月二十二日 式年遷宮の祭事で使用された祭器・装束など。三月斎行の立柱祭・上棟祭を特集

●浜田市世界子ども美術館

【企画展】「カグラ!石見神楽と浜田の伝統展」

●佐賀城本丸歴史館

【企画展】「佐賀の大絵馬」

●宮井ふるしき・袱紗ギャラリー

【第37回展示】「神々と袱紗展」

●横浜市歴史博物館

【企画展】「火の神・生命の神」

●堺市博物館

【企画展】「開口神社と堺」

●栃木県立博物館

【テーマ展】「願い・占い・まじない」

●鹿兒島県立歴史資料センター黎明館

【企画展】「縄文人のこころと祈り」

●愛荘町立歴史文化博物館

【企画展】「暮らしのなかの歳事」

神道国際学会からのお知らせ

- ◎いつも社報や刊行物をお送りくださり、ありがとうございます。 ◎投稿歓迎 皆様からの投稿を歓迎します。 ◎ご入会のご案内 神道国際学会にはどなたでも入会できます。

NPO 法人 神道国際学会 〒132-0035 東京都江戸川区平井5-22-9 田中ビル3階

編集後記

▼国際シンポで訪れた被災地・三陸。どんなに時間がかかろうとも、ふるさとの再生に向かって「決して諦めないぞ」という地元の方々の笑顔、そして力強さを見ました。